



《挨拶》

秋田県聴覚・言語障害教育研究会OB会  
平成16年度 OB会会報 第2号  
平成16年 10月 発行

中秋の名月 2004、9、28

あかあかや  
あかあかあかや あかあかや  
あかあかあかや あかあかや月

— 明 恵 —

(読売新聞 四季より)

## OB会の盛会を心より祈念して

秋田県聴覚・言語障害教育研究会OB会  
副会長 高橋 恒治

OB会は来年10周年を迎えるのですが、存続が話題になることもあります。ですから、タイトルをこんな風には書くと他人事のような、OB会の盛会を祈念しているばかりでは会員としては失格だなどと言われそうです。

OB会発足当時は全く耳にしなかった特別支援教育が、前を見ても、左を見てもあふれています。これまでの特殊教育と違うのではないのか、OB会に求められる現職への支援も変わってくるのではないかと思われがちですが、そうではありませんね。

特別支援教育はこれまでの特殊教育で成しえなかったところを補いつつ進むのです。つまり、特殊教育を乗り越えるところに特別支援教育の目指すものがあるのです。

ですから、OB会を存続することには大きな意義があるのです。それは、次の三点です。

- ア OB会発足趣旨である現職研修へのかかわりを維持していくこと。
- イ OB会員が現職当時に出来なかった思いを、現職教員に伝えていくこと。
- ウ 聴・言の現職を離れ、別の角度から人生についてお互いに学びあうこと。

私個人としては、上記「ウ」に強く関心があります。

参加率不足の私ですが、今年度役員改選で、副会長をお引き受けすることになりました。会長伊藤薫先生のもと、会員数の増加と、会員の知恵を結集することが求められています。ご支援の程よろしく願いいたします。



## 《提言》

### 今後の会の運営について

秋田県聴覚・言語障害教育研究会OB会

副会長 梅田 信彦

人は年とともに加齢し、老いる。「組織」もまた同様である。この会も「世代交代」の時期に至っている。

三年前から現役の先生方の厚意で「OB会」の事務局を引き受けて頂いている。年度毎に、県北、中央、県南と輪番して、今年度は角館西小の斎藤規子先生にお願いしている。しかし、会本来の姿からすれば変則であり、多忙な現役の先生にとっては難儀なことに違いない。ご迷惑をおかけしているのである。

「会報」である。

現在、計画から記事集め、編集、印刷、発送と会報発行の全行程を一手に引き受けられているのは、山田芳男先生である。これもまた大変なことである。各部署、行程を分担出来ればよいのだが、互いに離れていては連絡などかえって煩わしいことにもなりかねない。

山田先生の創意と工夫、御苦勞の甲斐あって会報は頗る好評である。好評であるだけに惜しまれるのであるが、やはり、ここにも「世代交代」が求められる。

「会員」である。

現在登録されている会員は約40名である。このうち毎年度会費を納入されている方は、ほぼ半数である。勿論、会の運営は全会員を対象に行っている。今回実施したアンケートも全会員に送付している。うち、回答を頂いた方は18名である。

ちなみに会の継続については、「する」とした方が16名、「しない」が1名無記入が1名であった。構成員の半数ではあるが、皆さんの会の継続への強い意志が伺えた。

さて、こうなると会としては今後の責任のある運営を考えないわけにはいかない。そのためには、やはり、次の二点が問題になる。

①「事務局」はOB会員の手で行う。

②「会報」の発行を継続するのであれば新しい担い手が必要である。

今後の会の継続のため、現実的な方策を全会員の皆様から真剣に考えて頂きたいのである。出来れば「自薦」で名乗り出て欲しいのである。



《報告》

第32回 秋田県聴覚・言語障害教育研究会

平成16年 8月23日～24日の2日間にわたり上記研究会が横手市を会場に開催されました。第1日目は県立近代美術館研修室(秋田ふるさと村)において講話と講演 第2日目は「ホールサムインよこて」において通級部会、難聴部会にわかれての分科会が行われました。

8月23日 第1日目の

(1)講話は「軽度発達障害児支援について」と題して仙南東小学校長 石山憲二氏からお話がありました。講話内容の要点は、次の通りです。

- ① 最近の子供達のように変わってきたこと(こんな症状を示す)
  - ・キレル・落ち着きがない・整理整頓ができない・忘れ物が多い
  - ・ある特定の学習ができない(知能は正常)・我慢ができない
  - ・無気力・凶悪な少年犯罪・ひきこもり、うつ・暴言、落書き等
- ② その背景にあるもの
  - ・子供達の脳が変わった・親が子供のサインに気付かない
- ③ なぜ、脳が変わったのか
  - ・環境ホルモンが胎児の脳に及ぼす影響・食生活の偏り
  - ・親子関係の変化・テレビゲーム、携帯メールのやりすぎ等
- ④ では、どうしたらよいのか
  - ・周囲の理解・自尊心の回復・食生活の改善・読み書き計算が効果的

(2)講演は「これからの特別支援教育を考える」と題して国立特殊教育総合研究所名誉所員 菅原広一氏のお話でした。内容は次の通りです。

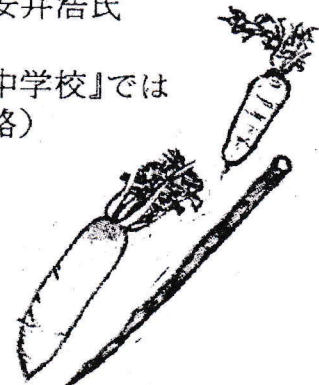
- ① 特殊教育から特別支援教育への発想の根源～平成13年1月から平成15年3月にかけての特殊教育の在り方の変化を中心に話されました。
- ② 「ことば」に掲載の特別支援教育に関する意見として9項目に亘って説明されました。(ことば N0215, 2004・4)
- ③ 聴覚・言語障害教育の視点からとして9項目のについて説明がありました。

《例》・子ども観(飛ばないたこはたこではないのか。「一寸の虫にも五分の魂」というが、「一寸の虫には一寸の魂」ではないのか。)

- ・各専門機関間ネットワークと機関内ネットワークについて
- ・特別支援教育コーディネーターについて
  - ・難聴・言語障害の専門性について 等

8月24日の2日目は分科会に分かれての研究会でした。

- ①通級部会の話者提供者は『構音障害』で旭南小教諭 安井浩氏  
『言語発達遅滞』で桂城小教諭 桜庭成人氏でした
- ②難聴部会では『小学校』で払戸小教諭 室井明美氏 『中学校』では山内中教諭 遠藤直子氏の発表でした。(発表内容省略)



《調査》 アンケート調査 ～別紙  
【集計、並びに分析結果 コメントは OB会副会長 梅田信彦氏による】

東西南北「教室便り」

～今年度の教室状況について～

能代市立湊城第二小学校  
ことばの通級指導教室

佐藤昌子



本校の「ことばの通級指導教室」は、歴史と伝統のもとに38年もの月日が流れております。その間の、偉大なる先輩諸先生方のご苦勞は並大抵のものではなかったと想像することができます。

そのお陰で、私たちは今、恵まれた環境の中で、子供たちと楽しく過ごさせていただいております。心より感謝申し上げます。

さて、今年度の通級生の人数は？というと・・・。

なんと、38名。正式通級が28名とプラス10名です。これには、さすがの担当もびっくり！！でも、保護者のほとんどが慣れている人たちなので、「明るく・楽しい教室」を目指して一緒に頑張っています。

本校は、数年前まで「ことばの教室・後援会」があり、地域の方々からは、温かいご理解とご協力のもとに、物心両面から支えていただいた経緯があります。その後「親の会」に移行したのですが、事業等はそのまま引き継がれ、活発な活動が継続されております。

その中でも、お母さん方に人気があり、参加者が多いのは「母親教室」で、美味しいお菓子を作ったり、手芸的な小物作り等、和気あいあいとした雰囲気の中で実施されています。先日は、今年度、第一回目「パンナコッタ作り」をして、試作品を味わい美味しい時間を共有することができました。次回を楽しみにして待っていてくれる保護者も沢山いるので、企画側としても張り合いがあります。

これからも、“楽しさ・美味しさ”を求めて「日夜不断の歩みを続け」（能代市立湊城第二小学校の校歌の始めの部分）進んでいきたいと思っています。

## 通級担当で学んだこと

本荘市立 鶴舞小学校

通級指導教室 担当 佐藤 久之

この分野に関わって3年目に入った。これまでは、最低でも1年間は毎日同じ子どもたちと接してきた。ところが、通級指導教室でもっとも戸惑いを感じたのが、1週間のうち、毎日毎時間、子どもが入れ代わるという点であった。同時に、指導の記録が役立つことを、これまでとは別の意味で実感している。症状や状態が似ている子どもがいる場合などは、特に重要である。また、構音障害の子どもの指導の場合、指導中に見落としている部分はないか、自分の指導がその子に適しているかなどを見るために、保護者に了解を取り、毎時間ビデオを撮らせてもらい、指導後に繰り返しチェックしたのが昨年度であった。

他校からの通級の場合、保護者が仕事の都合をつけ、遠くは1時間近くかけて来級する場合もあった。それだけに保護者の教室への期待も大きかった。通級指導の1時間という時間の重みは以前とは比べられないほど重くのしかかった。

今年度、ちらほらと子どもが退級していく。子どもたちに「おうちの人に感謝するんだよ」と必ず伝えている。保護者の中には、指導の効果がなかなか見えない時の焦りや不安な日々を時々思い出し、涙ぐむ方もいる。1週間にたった1時間程度ではあるが、障害の改善を願い、無理をしてでも都合をつけて送迎してきたことが報われる瞬間なのであろう。

特別支援教育では、今後通級指導の形に移っていくであろうが、担当する教師は、子どもを支えている保護者の熱い思いに、これまで以上に答えていかなければならないと思う。そのためにも、指導者としての自らの努力と、人間としての幅の広い視野を持つことが大切であると考えようになった。

## 自分のめあてを決めて

鹿角市立 花輪小学校

通級指導教室 担当 井上 朝子

今月上旬で通級指導が終了した自校3年生に、教室紀要に載せる作文を書いてもらっているところです。

その題名は、『キとツの練習』。作文は、【先生と二人で楽しく勉強できてよかったです。じゅぎょうのおわりのゲームコーナーもおたのしみでした。】で終わっています。

昨年夏の研究会(日言研)で受講した「遊びとコミュニケーション」では、真面目な顔をして集中して遊ぶ遊びは仕事や学習活動に発展するという重要な側面をもっていることを、再確認しました。ルールを理解、言葉の



使い方や伝え方、語いの増加等々。

通級児童は『ツが言えるように～。お話がきちんとできるように～。音読が上手になりたい。サシスセソが正しく言えるようにがんばる。』と、それぞれ自分のめあてを決めて言葉の学習に取り組んでいます。構音や発音練習では「難しい！」と言い出す児童もいる中で、ちょっと息抜きができる楽しい時間を共有したいと思っている私です。

教室予算を別枠で頂いているこの教室には、教具の他に自由に選んで楽しめる遊具がかなりあります。とても幸せなことです。

通級児童リストアップから始まった今年度も残すところ半年。16年度の教室紀要作成に向けての諸準備、自校通級児童保護者への参観依頼、学習発表会兼楽しみ会開催と、3月に向けて活動が続きます。

## MEMORIAL HALL 2004

### 初孫見参記

能代市 梅田 信彦

遅き春 娘三十路の 初子かな

今年、五月十八日、娘が結婚十一年で長男を出産した。文字通りの初孫である。

孫は可愛いと言うがそれどころではない。

体重の増加がはかばかしくないと云えば心が痛み、黄胆で紫外線を照射すると聞けばオロオロする。ことばの教室経験でなまじ知識があるせいで始末が悪い。

未熟児で生まれた「嬰兒」を手にしたとき、その軽さに動揺したが、同時にまたその生命の確かさにも驚いた。生命とは生きる営みそのものだと改めて実感した。

九月十四日、お宮詣りというので久々に対面した。まるで博多人形のように色白でふっくらしていて、……、微笑んだ。

なんという企みか。悪戯か。これでは誰でも命懸けで守りたいと思わずにいられないではないか。

満月に 孫の無事をば 祈りけり

折しも、九月二十八日は中秋の名月である。

【あとがき】 爽やかな秋晴れの日が続いています。今日は中秋の名月が見られるとのことで、すすき、栗、なし、柿、ぶどう、枝豆、そしてお団子をお月様に供えております。なんとも風雅な風景ではありませんか！。

これまで、快くご寄稿下さった教室の先生方、アンケート調査にご協力下さった会員の皆様に感謝致します。有り難うございました。

会員皆様のご自愛を祈ります。ではまた 皆様お元気で。

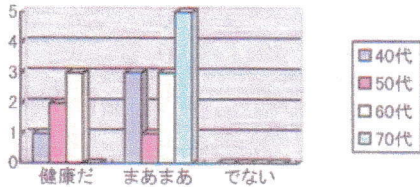
《山田》



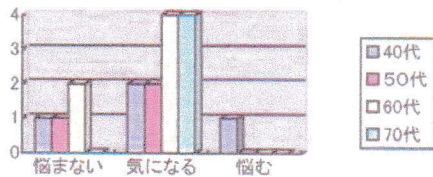
# アンケートレポート

先日お願いしましたアンケートがまとまりましたので報告します。会員の皆様のご協力ありがとうございました。構成員38名中回答をいただきましたのは18名です。

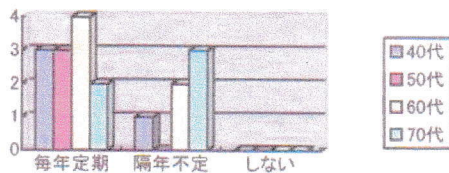
## 第1部 生活編



回答者の年代別人数は、40代4、50代3、60代6、70代5です。



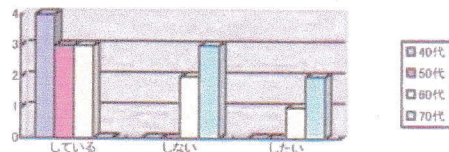
上のグラフは「健康についての悩み」です。



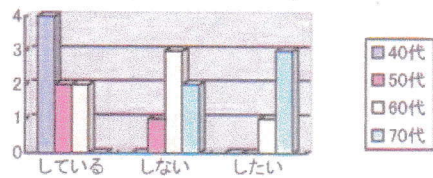
健康定期検診についてのものです。

こうしてこのグラフを見比べてみますと、やはり皆さんがそれぞれ健康に配慮されている様子がよく分かります。血圧の項目に回答された方は、15名です。40代2、50代3、60代6、70代4です。ご自分の血圧の値が「分からない」と回答された方は、40代、50代、70代でそれぞれ各1名です。次は、パソコンについてです。

現役世代の40、50代は全員使っています。退職世代

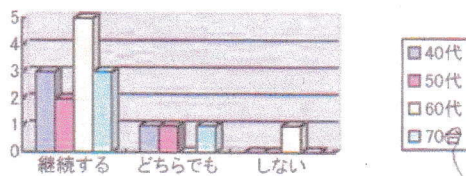


でも3名の方が「挑戦的」です。



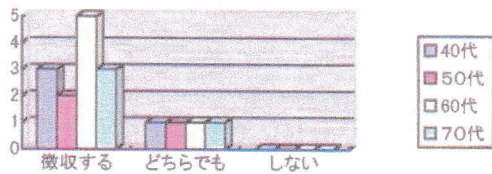
上のグラフはインターネットについてです。現役世代では1名を除いて全員が実施しています。70代でやってみたくと意欲を見せている方が3名です。

## 第2部 OB会編



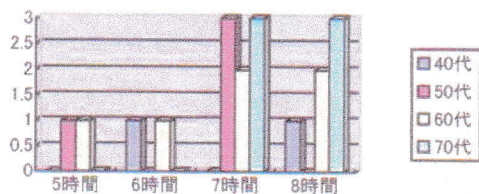
OB会を継続するかどうかについての皆さんの意向です。回答者17名です。

次は、会費の徴収についてです。



この二つのグラフからみますと皆さんの会の継続の意向が強いことが伺えます。

会費の額については、現状維持が16名、「高い」が1名です。納入方法では、郵便振替が全員「良し」とされています。ただ、専用の用紙を会報などに同封してほしいという要望が多くありました。



これは、皆さんの睡眠時間です。さすがに、9時間という方はおられませんでしたが、70代の方も元気で充実した毎日を送られているご様子で何よりです。

## 会の活動について(アンケートから)

\* 皆さんからのコメントを紹介します。

1. OB会は必要です。他の会にはありません。OB会の方々の知識は現在の自分たちにとってかけがえのないものです。
2. 勤務しているので、土、日のほうがありがたいです。
3. 現職で苦勞しておられる先生方へ何かしら支援できる活動が出来ればと思います。
4. 現職の支援でよい。会員同士の交流は現状では難しいと思う。
5. 聴覚言語障害に限らず幅広い生き方をテーマにしてはどうでしょう。
6. 会の果たしてきた役割に敬意を表したいと思います。
7. 現職教員への相談活動と支援(必要に応じて)。会員相互の親睦、交流。
8. 「一泊研」の夜、懇親会にOB会員も多く参加し、語り合うようにしたらどうか。
9. 後進の指導を基盤にした活動はすばらしいと思う。孤立感を味わせない組織への援助がよい。
10. この会の存在自体は尊いけれど、現職の方に依存しないで単独活動が可能かどうか気になることです。
11. OB会は現職教育への支援団体として発足したのだから、お金はきちんと出すことが当然だと思う。
12. いつも頑張ってくださいありがとうございます。
13. ある大先輩の校長より、退職して三年くらいは後輩に対して助言や提言もよいが四年過ぎたら教育界に口出しするものではないと言われた意味が、ようやく分かってきました。

## 会の組織について

1. 世代交代、若い方に移行すべきだ。その準備として次に世代の代表と話し合う。
2. せっかく組織されている会なので、現在そのまま続行してよいのではないかと思います。
3. 出席もせず、お金も出さない方は会員から取り下げたほうがよい。
4. 現状の組織形態はすばらしいと思うので存続を願う。
5. 総会で話し合い、各分野から役員を入れていく。見通しを持って方向性を明確にしていく。
6. シンプルな組織であれば長続きするのではないのでしょうか。

7. 草創期のメンバーがOB会を引退する頃、OB会の存続は難しいと思います。(その後のメンバーは一人一人意識が違いますので)
8. 現役の者に対しての意見や、研修会にはどんどん多数の方が出席して、遠慮することなく意見や思いを発言していただきたいと思います。OB会の存続をどうする課など考える必要はないと思います。OB会があつてこそ聴言研です。どうか先輩方が胸を張って存在を表していただきたいと考えます。不必要と考えるものの思いが理解できません。

## 会報について

1. 楽しく読ませていただいています。
2. 特殊関係外の講師を呼んでリフレッシュしてもよいのでは。
3. 会員の皆さんからの便りはとても楽しいです。担当してくださる方にはご難儀をおかけしています。
4. 写真なども載せると楽しいものになる(写真、原稿なども今はインターネットで送る)
5. しばらくは今のままでよろしいと思います。
6. 現在に方向で自由さと本来の会の目的の専門的な面からと適宜取り上げていきたいものです。(OB会員、現職も含めて)
7. これまでに長々と創意工夫されてきているので、このまま続けて発行してもらえればありがたいと思う。
8. 現場を離れて十数年の方も多いと思う。短くとも多くの方々の近況報告(過ごし方、エッセイ)があるとうれしい。
9. 編集ご苦労様です。
10. 楽しく読ませていただいております。
11. 会員の状況がわかり必要と思う。現職員の声も今後取り上げたらどうだろうか。
12. 送られてくる会報を読むのが精一杯です。
13. 会報をいつもうれしく読ませていただいております。毎号に、題字、命名者は不要と思います。もし乗せるのなら、巻末や欄外に小さく控えめにしたほうが感じがよいと思います。
14. 本当にありがたいと思っている。しかし、これもいつまでも先生に頼って入れない。

「食事・健康法」「読書」「座右の銘」のまとめは、今回は間に合いませんでした。次回に回したいと思います。皆さんからの便りありがとうございました。